

抜粋版



# バスケットボールプラザ

*Basketball Plaza*

*No:14*

---

2001年4月

日本バスケットボール振興会

asics



おかげさまで50年

まず気持ちから、軽くなる。

プレーを楽しくする軽さ。

“ファブレ®ゲルスパークライト”登場。

練習がキツイ。カラダが切れない。後半がしんどい。

そんな悩みに、“ファブレ®ゲルスパークライト”はよく効きます。

シリーズナンバーワンの軽さが足への負担を軽減し、

軽快なステップワークを実現。

さらに、ソールの屈曲性を高めることで、

蹴り出しがスムーズになるため、

体感的な軽さもアップしました。

気分も軽く、楽しくプレーできる。

それがバスケがうまくなる一番の早道です。



0150

品名ファブレ®ゲルスパークライト NEW  
品名TBF590  
メーカー希望小売価格¥13,500  
カラー/0123 ホワイト×レッド  
0132 ホワイト×グレイッシュパープル  
0150 ホワイト×ネイビーブルー  
サイズ/22.5~28.0cm



0123



0132

株式会社 **アシックス** ●インターネットでアシックスの情報を提供しています。 <http://www.asics.co.jp/>

●表示価格は全て消費税抜きのメーカー希望小売価格です。●Bは(株)アシックスの登録商標です。

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックスお客様相談室までどうぞ。

本社/〒850-8565 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233 東京支社/〒130-8585 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)3624-1814



JOCオフィシャルスポンサー



スポーツあげたい。スポーツほしい。

全国共通スポーツ券

# 目 次

○ 3月理事会・評議員会報告概要	1
○ 規約改訂解説	10
○ 改訂規約	11
○ 観戦記	
ウインターカップエレジー	加藤 廣志 15
○ 特集「学生バスケット界寸描」	広報部会 16
○ 学生に期待する	関口 荘次 27
○ 学生とのコミュニケーション	森 陽司 28
○ <b>風神雷神</b> . . . 《21世紀に残したい習慣》	森澤 誠一 30
○ <b>わが軌跡</b> . . . 《懐旧あれこれ》	桜井美知夫 32
○ 会員だより	34
	宮川 敦信 鈴木 義高
	田中 悦子
○ JBLプレスーパーリーグを終えて	島川 成之 37
○ WJBLリーグ戦を振り返って	内島ひとみ 39
○ 競技規則変更の要点	41
○ 役員一覧表	42
○ 常任理事会報告	45
○ 日本バスケットボール協会役員改選	48
○ 各団体スケジュール	50
○ 訃報・事務局便り	51

## ウィンターカップエレジー



加藤 廣志

30年間率いた能代工を加藤三彦コーチに託し現場を離れて早や11年になる。恩師、稲垣安二先生の古稀のお祝いがウィンターカップ前日に行われ、席上で当振興会加入を促され、この4月より仲間入りさせていただいた。早速、事務局よりウィンターカップ観戦記（能代工、史上初緒戦敗退）の寄稿依頼を受けた。正直のところ「編集・広報懇談会には相当意地悪爺さんがいるな」と、頭にきたが、これまでよい思い出もさせていただいたことに感謝し重い筆を持つ。

初日（12月23日）、東京体育館に入ると1回戦にもかかわらず超満員。4面コートを使い同時進行とあって、まるで蜂の巣を突ついた雰囲気の中、選手コーチ応援団が一体となり必死に戦っている姿に、やはり血が騒ぐ。会場には1971年、本大会開催のため奔走され仕切ってくださった野口政勝先生（中大杉並・インターハイ3連覇）と、江上勝幸先生（明大中野・第1回大会優勝）が、お揃いで観戦しておられた。駆け出し時代にご指導頂いた恩人であり、目標としていた頃を思いだし感無量。

この日、能代工と緒戦対戦となる四日市工対洛南戦を観戦。結果は四日市工が富山国体準優勝の主力選手を擁する洛南を80対62の大差で破る。これは、油断禁物。

（12月24日・2回戦）

四日市工 83  $\left[ \begin{array}{l} 35-45 \\ 48-37 \end{array} \right]$  82 能代工

この試合、浮田君（元相模工大付）と一緒に観戦した。四日市工の水谷コーチは、同じ釜の飯を食った同期の原照君（元四日市工）の教え子。言わば息子対決でもある。

開始早々に能代工が14点リードする場面があった。昨年と同じく一方的ゲームになるかと思われたところでボール運びにミスがでた。すかさず山田を出場させる。このところ控えに回されているが、インターハイ北中城戦で、残り0.2秒、逆転させた救世主である。その山田にもミスがでてしまった。司令塔でもある南部の好デフェンスに速攻を阻まれ、攻撃がかみ合わず大黒柱長沢にファールが嵩む。その長沢が後半開始早々5反則退場。残り10分にはセンター高久までが退場し2枚看板が不在となる。四日市工のエース桜井は水を得た魚のごとくに調子づき、この試合51得点。3P6本、ブロック7、ダンク3と驚異的パフォーマンスを演じ1点差で夏のインターハイ優勝校を下した。昨年のこの大会で121対44と大敗したが、これをバネにチーム一丸となって雪辱を果たしたのは立派。一方、ダンクコンテスト1位の長沢が後半いっぱいベンチに座っている姿を見て残念このうえない。平成4年インターハイで岐阜農林に緒戦敗退したその屈辱を糧に連覇につなげている。あの這い蹲って食らいついていく泥臭い能代工バスケットの再来を期待しつつ体育館を後にする。（私的な観戦記になりましたことをお詫びします）

[前 能代工業高監督・校長]

# 学生バスケット界寸描

## 一 関東大学の指導者に聞く 一

はじめに

昨今の関東大学バスケットボール界には、やや陰りが窺われる状況もあって、久しく各方面に憂慮の声を呼んでいるようである。大学生バスケットボールのレベルアップこそは、オリンピック出場の夢を追う全日本（日本代表）チームの命運を左右する大きな要因と考えられるからであろう。そこで振興会（広報）としては、バスケットに取り組んでいる最近の大学生の基本姿勢、気質などの実像を探りながら、また日常大学生達を直接指導されている若手の監督・コーチ諸氏の色々な思いに触れながら、大学生バスケット界の一隅にスポットをあててみることを企画した。

私どもの非力の故に、徹底的なアプローチは望み得べくもなく、従って内容的にも側面的素描の範囲を出ないものと思われる点をご容赦願いたい。幸いにして関東大学バスケット連盟を通じ、傘下の数大学から好意的なご協力を頂けたので、昨年10月25日、振興会事務所において、ささやかな懇談の機が得られた次第である。

その際お伺いできた出席諸氏の率直かつ貴重なご意見、ご感想の数々につき当方広報で整理し、諸氏のご同意を得たうえで以下に掲載する運びとなった。各方面のご関係者に、幾分なりとも大学バスケット界の実態に触れて頂くよすががともなれば幸いであるが、併せて学生バスケット界に対し一層のご理解ご支援を賜るよう希望してやまない。

### ○ご出席頂いた方々（アイウエオ順）

青木 崇 氏	早稲田大学監督	（元日本鉱業）
大原 輝隆 氏	日本体育大学コーチ	（元松下電器）
中原 雄 氏	専修大学コーチ	（元いすゞ自動車）
馬場 敏春 氏	法政大学コーチ	（元三井生命）
山崎 滋雄 氏	青山学院大学コーチ	（元アンフィニー東京）

### ○振興会側出席者

（広報） 大塚 周一 笹岡 太一 早川 忠雄 小澤 正博  
（事務局） 川本禮治郎 薄井 千代

\*ご出席者各位のご発言については、紙面の都合上やむをえず一部を割愛させて頂くとともに、それぞれのご発言者については上掲順序とは関係なく、下記のとおりランダムに「A, B, C, D, E」とさせて頂いた。

（編集広報懇談会）

司 会 本日はお忙しいなか、ご出席頂き有難うございます。これから始めさせて頂きますが、最初に振興会の側からご挨拶をさせて頂きます。

振興会 日本バスケットボール振興会は、簡単に申し上げますとバスケットボールを愛するOB、OGが中心となって組織している会で、現在全国で約260名の個人会員と15社の法人会員で構成され、その運営は殆ど会費によって賄われています。振興会では普及、広報活動の一環として、今までも「ミニバス」や「中学生バスケット」あるいは「ママさんバスケット」などに焦点をあて、それぞれ特集記事として会報に掲載してきましたが、今回は最近のバスケット界で何かと心配されている「大学男子バスケット」について特集を組み、会報「バスケットボールプラザ」第14号に掲載したいと思いますので、大学生選手達の気質、実像や日常指導に当たられている皆様方のご経験、ご感想などにつき忌憚のないお話を頂ければ幸いです。

### 日頃の練習は？

司 会 まず最初に各大学の練習状況についてお聞かせ下さい。

B 氏 うちの大学は毎日3時間練習しています。

D 氏 うちの夜7時から10時までで週に1回休みます。

A 氏 月曜日を除く毎日、夜6時から8時30分までと日曜日は3時間練習します。

C 氏 月曜日を除いて毎日2時間の練習です。

E 氏 同じく月曜日を除いて毎日3時間練習です。

司 会 皆さん殆ど毎日練習されているようですが、練習の充実度は如何ですか？

A 氏 練習が始まって最初にアップをやるのですが、これに30分から40分かかってしまいますので、その分実質練習量は減りますね。

D 氏 昔、我々の頃は、アップなどは練習の前に各自でやったものです。今は練習開始時間ギリギリに集まってきましたし、開始30分前に行ってみても誰もいませんね。

振興会 授業にでた後、アルバイトでもやっているのでしょうか？

C 氏 バイトに行っている学生は殆どいませんが、授業にはきちんと出席しているようです。

司 会 皆さん方は学生の頃真面目に授業に出ておられましたか？

D 氏 授業にはあまり真面目に出ていなかったように思います。毎日午後2時半以降は練習で、バスケットだけの4年間だったと記憶しています。現在はバスケットだけやっていたら何とかなるという時代ではなく、きちんと授業に出席して単位もしっかり取って卒業しないと、社会に出てから通用しませんので。

### 最近の学生気質は？

B 氏 私が学生の頃は、バスケットだけでなく他のスポーツもある程度やりました。卒業後教員を目指すとなると、試験に受かって資格をとらなければなりませんでしたが、授業にも真面目に出席して勉強したものです。当時は単位を落としたりしたら大変な恥でしたしね。それに比べ今の学生は危機感がないといえますか、勉強しなくても、何とかなるという安易な気持ちがあるのではないのでしょうか。最近は授業にも出ない、



馬場氏

勉強もしない、練習も適当という学生が多いようです。合宿所での生活態度がいいかげんな者もいますが、日常の生活をきちんとしていない学生は、バスケットにもそれが出ますよ。なかには茶髪などもありますし。

振興会 最近若い人の茶髪がはやっていますが、学生選手の茶髪についてはどうお考えですか？

A 氏 現在の社会で最初から茶髪OKの会社は少ないのではないですか。絶対だめとは言っていないですが、スポーツマンとしては普通にしていた方がいいですね。

司 会 皆さんが学生の頃は、髪の毛を染めるなどということはまずなかったと思いますが、最近の学生のバスケットに対する姿勢や気質はどんなものなのでしょう？

A 氏 高校生のバスケットをみていると、指導者や先生が昔と同じようにしごいていて選手達も一生懸命やっているようです。ところが大学に入るとその雰囲気が変わってしまい、一生懸命さが希薄になるように思います。あまり部員同士の仲間意識もなく、先輩後輩の意識や、上級生下級生の意識もなく、結局そういう意識がないから失敗しても怒れないし、あまり深刻に考えもしないようです。やはりそうした意識を持っていないとバスケットは強くなりませんね。

D 氏 同感です。チームにはコーチと選手がありますが、コーチと選手の間はともかく、選手同士の思いやりが少ないようです。ドライといえばそれまでですが、先輩後輩の役割は各々あるはずなのにそれが果たせない、まあ「意識」がないということでしょうね。

振興会 学生達は練習を一生懸命やっていますか？それともあまり考えず惰性的にやっているのでしょうか？

B 氏 両方でしょうね。私は選手が一生懸命やったにも拘らず、結果的に失敗をしてしまった時は叱りません。ところがいくら教えても同じミスを繰り返す者がいます。言われたときは理解しますが、少したつと忘れてミスをする。「意識」の無さといいますか、そういう選手は普段の生活態度もバスケットに影響していると思います。自分の弱点を指摘されて叱られると返事もしません。個人主義的な考え方なのでしょう。寂しく感じますね。

司 会 皆さんが学生で苦労された頃、生活面を含めて先輩達は厳しかったですか？

A 氏 練習はきつかったですが割と自由だったような気がします。

D 氏 自由でしたが下級生の頃などは練習前の段取りとか、上級生やチーム全体に対する準備や気配りに神経を使ったものです。

A 氏 時代が変わったのか先輩後輩の意識が無いですね。最近の学校教育ではありませんが、お互いに嫌われたくないので、上級生は下級生を叱らない。この道では先輩だという意識も無いから後輩を指導できないでいるようです。

C 氏 私は、コート上では先輩後輩とも同等で良いと思いますが、一步コートを出たら、一



青木氏



大原氏

応先輩後輩のけじめがある日本の社会のいいところは、むしろ必要かと思われます。学生達に強要はしませんが、何故こういうことをしなければいけないかということをお教えながら「意識」を持たせ、練習も「意識」をもって取り組むよう指導しています。そうしないと卒業して社会に出てから通用しませんから。

#### 将来への展望は？

司 会 今の学生達は卒業後、できればJBLのチームに入りたいと思っているのでしょうか？

C 氏 トップクラスのチームに入りたいと思っている者と、そうでない者と、はっきりしています。JBLのチームに休部や廃部が相次ぎ、チーム数が減少している最近では、JBLのチームに行ってバスケットをやりたいと考えている学生も少しはいますが、何がなんでもという意識は全体的に薄れているようです。トップチームが減ればそれだけ道がせばまるので、日常の一生懸命さも薄くなる傾向はありますね。先のことより現在を一生懸命に努力せよ、と教えてはいますが…。

司 会 卒業後の人生設計についてはどうでしょうか？バスケットとは別に何か考えているのでしょうか？

C 氏 彼らの人生なのでその辺は本人に任せています。卒業後もバスケットをやりたいという人は是非続けて貰いたいですが、就職などは学生の意向を優先させます。

A 氏 JBLの現状に問題がないわけではないと思います。例えばプロ契約がありますが、再契約ができなくて路頭に迷っているOBがいたり、かつて選手だった人がトラックの運転手をやっているということなどを聞きますと、後輩達に何がなんでもJBLチームや企業チームに入ってバスケットをやれとも言えません。バスケットの選手生活が終わったあと、企業側の受け皿がしっかり整っていればいいのですが、最近の世間情勢ではそれもままならず難しい問題です。

C 氏 アメリカの場合はNBAという強大な組織があるので、学生達は夢をもって練習をやっています。日本は卒業後殆どが企業に行くので、バスケットの選手生活が終わった後、企業側の受け皿が整っていない場合などは、大学でのバスケットに今一つ熱心さがなくなるようです。JBLのチームに入ってバスケットをやりたいというわずかな人達以外、バスケットでの就職などは考えていないようで、そんなことも学生のバスケットに影響しているかと思ひます。

#### 基本的な面での資質は？

A 氏 高校生のとき一生懸命バスケットをやった優秀な選手が、大学に入るとバスケットを一生懸命やらなくなるケースもありますね。先行きが不安なのでしょうか。話は違ひますが、最近のバスケットはどうもオフェンス重視で、勝つことに拘りすぎているような気がします。ミニも含めてオフェンスは結構上手ですが、ディフェンスとなるとまるでダメで、練習もあまりやっていないようです。

アメリカのNCAAのように、きちんとしたバスケットを一生懸命やるように、大学でも教えていかなければだめだと思ひます。一生懸命さがなから人気もいまひとつ



伸びないのではないのでしょうか。

- D 氏 同感ですね。アメリカの学生バスケットは基本からきちんとやっています。それに比べて自分の大学のプレイをみると、荒っぽくて雑なバスケットをやっています。ディフェンスを含めて、きちんとしたバスケットを教えるだけで大分違ってくるので、この辺の教え方が大事だと思います。
- 司 会 中学や高校で、基本というかディフェンスをあまり教えていないのでしょうか？ オフェンス重視で勝敗にこだわっている試合もよく見かけますが。
- A 氏 どこかで基本となるディフェンスをマスターしないとだめだと思います。高校でやるか、アメリカのようにストリートバスケットで覚えてしまうと、大学でももっとディフェンスの練習があつていいと思います。
- E 氏 うちの大学ではディフェンスを相当教えています。学生達もディフェンスを頑張ることが勝利に結びつくということを経験し理解すると、結構ディフェンスの練習もこなすようになります。
- バスケットに対する取り組み方については、先のことより今現在をどう頑張るのかという観点で指導していますし、大会毎に目標を決めて取り組んでいます。
- 日常の練習でもオフェンスとディフェンスを交互にやっています。
- A 氏 選手個々にみると、脚力の有無がディフェンスにもオフェンスにも影響してきます。個々の脚力がないので、ディフェンスについてはどうしても全体練習というかチームディフェンスに頼る形の練習になってしまいます。その結果として、更にミスも多くなり、疲れてくればすぐボロを出してしまう。昔は脚力強化の練習などは、個人で個々にやったものですが、今はそれが無いですね。
- 振興会 私達が学生の頃はディフェンスが基本となった厳しい練習でした。バスケットの基本はやはりディフェンスにあるのではないのでしょうか。
- 司 会 昔の話が出ましたが、当時は練習や試合の後でも筋力トレーニングをやっていましたね。
- E 氏 うちでは全体練習が終わったあと、トレーナーの指導により筋力トレーニングをしています。その練習が勝利につながるとわかれば選手の自負となり、だまっても自分達で筋力強化のトレーニングをやるようになります。あとはそれをいかに維持させ、続けさせるかが課題です。
- C 氏 最近、NHKのBS放送でNBAの試合をよく放映していますが、小さいころからあのようなバスケットを身近に見ているので、どうしてもオフェンスを中心にした派手なプレイを真似る傾向になっているのではないのでしょうか。

「ひたむきさ」こそ観客を集める！

- A 氏 いずれにしても「ひたむきさ」が足りないように思います。下手でもいいから一生懸命にやってもらいたい、単に勝つためだけではなく、一生懸命やれば見ている人にも感動を与えられ、観客も増えると思います。
- 振興会 観客動員の話がでていますが、学生リーグにもっと観客



中原氏

が入って賑わってくれないとだめだと思います。組織としても観客動員をもっと積極的にやっては如何でしょうか？小中学生が大学リーグについて何も知らないケースも多いようです。観客が増えれば、学生達にももっとやる気が出て、いいプレイも見られるようになるのではないのでしょうか。

C 氏 やる気の問題が出ましたが、一つの例として全日本総合選手権大会があります。この大会が外人選手抜きだったら、学生にも少しは勝ち目がでてきて、インカレの後も練習に励むようになると思います。

昔、学生が実業団チームに勝ったこともあり、そうなれば学生の方も盛り上がってくるのではないのでしょうか。

司 会 確かに昔、学生が実業団に勝った頃は、一般的にバスケットが盛り上がっていましたが、最近はどうも今ひとつの感ですね。

振興会 全日本総合選手権大会の外人問題については、日本協会でも検討を始めているようです。

B 氏 学生のあり方に繋がるかどうかはともかくとして、自分達が現役でやっていた頃と今とを比べると、やはり「一生懸命さ」が不足していると思います。

バスケットはプレイのひとつひとつに気持ちがしっかりと入っていなければ、練習中も含めて良いプレイはできません。

選手個々にみますと、昔より現在の方が能力が高くパワーもありシュートも上手だと思います。しかし、いざ試合となるとそれらが発揮できず、昨日勝って今日ひどい負け方をするというような、だらしない面があります。

アメリカには、学生の練習態度やコーチに接する態度など、本当に「一生懸命やる」という素晴らしさがあります。日本では現代社会の生活習慣からか、厳しさが無いようです。しかし、バスケットに取り組む厳しさというものを、急に学生達に要求しても無理があらうと思われるので、指導者が長い時間をかけて教えていく必要があるのではないのでしょうか。

学生の試合にしても、見に行った人が「これは面白くて素晴らしい」と感ずるようになればファンも増え、自然に観客も増えてくると思います。

#### 学生の技術的資質は？

司 会 皆さんの現役の頃と比べて最近の技術的な能力はどうですか？

D 氏 私が現役のころ、3年生になるまでダンクシュートができませんでしたが、うちの大学には1年生でダンクができる能力を持った選手もいます。問題はこういう選手をきっちりと育てることができるかどうかだと思います。

A 氏 技術と体力とはどちらが先とも言えませんが、ミニや中学のときから体系的に教えていくことが大切だと思います。お隣の韓国では一貫した教え方が確立しているようですし、指導者についてもある程度保障されているようです。

E 氏 今の学生達の能力はすごいと思います。ミニの頃からやっていた選手はドリブルひとつとってみてもかなり上手です。

機会あって中学の練習を見に行ったのですが、ミニの頃からやっていた子供と、中学

になってから始めた子供とでは差がありすぎて、教えるのに苦労していました。ミニ、中学までは一生懸命バスケットをやっても、高校生で技術が落ち、大学で更に落ちてやる気がなくなるケースも多いようです。

C 氏 今の学生は、我々のころより技術的にワンランク上だとみています。NBAのプレイなどもよく見ているようで、見よう見真似でよくやっていますから、指導者がどこで何をどう教えれば良いか、我々コーチも勉強しないといけませんね。

司 会 個々に能力があるとすれば、先行き明るい要因となるのではないですか？

B 氏 能力はありますが技術が伴っていません。技術的なことをきちんと教える指導者も少ないのではないのでしょうか。運動生理学のことも理解しないで、ただ走らせてばかりいる指導者もいるようです。指導者は選手にもっと夢を持たせるようにしながら大事に教えていく必要があると思います。

高校から入ってきて、身体がまだできないうちに試合になってしまい、オフェンス中心の単に勝つためだけのバスケットになっていき、結果として彼らの身体まで壊してしまう悪循環が生まれる。やはり身体を作りながら技術を身につけさせていくことが大切です。

振興会 高校から入ってくるレベルの高い選手が、大学で育たないようなことも耳にしますが…？

B 氏 レベルの高い良い選手は他の大学にも沢山います。うまくすればNBAに届く位の優秀な選手もいますが、大学の4年間で期待したほど育たないようです。

司 会 皆さんが直接学生を教えているなかで、どのような悩みをお持ちでしょうか？

B 氏 学生が指導者に対し信頼感を持ってくれるように仕向ければ、悩みなどはなくなると思います。

E 氏 なかなか時間が取れなくて、学生の練習を思うように見てやれないのが悩みです。

### コミュニケーションの難しさ

司 会 チームワークの問題については如何ですか？

E 氏 最近の学生はゲーム中あまり喋りませんね。高校でも大学でもそうですが、お互いにカバーしたり励ましたりすることが大切なのに、黙ってプレイしています。ベンチにいる連中も大声で応援しないようです。

A 氏 ベンチで騒ぐとテクニカルファウルをとられ易いので、あまり喋らないのではないのでしょうか。

司 会 昔は精神的にも技術的にも、プレイヤー同士のコミュニケーションはもっとあったと記憶していますが、今の学生達はゲーム中も静かですね。

E 氏 交代してベンチに戻ると急に喋ったりする選手もいます。ベンチで喋る位ならゲーム中もっとコミュニケーションをするよう注意したりしています。

振興会 学生達の愛校心というか、愛部心というようなものはどうですか？

A 氏 ないことはないですが薄らいでいることは確かですね。試合や練習に関係ないところで急に盛り上がったたりする様をみると、昔と比べて発散の仕方が違うのかなと思うこ



山崎氏

ともあります。中学からの偏差値教育が影響しているのかどうか分かりませんが、高校に入ってもガンガンやらず、大学へ入ると自己が芽生えて変に大人になる傾向があるようです。

D 氏 学生達が自己の表現の仕方をマスターしていないため、なかなか自己主張しない点も感じてます。

秋のリーグ戦で、他の各校と1勝1敗になる場合がありますが、本当に強ければ2連勝するでしょうし、弱ければ連敗するのが常道です。こういうところをみると精神的に弱さが出ているのを感じます。コーチが2人いる場合などは、技術的な面と精神的な面とを分担して面倒をみるようにしています。メンタル的に弱い学生は、こちらから聞きに行かないと何も喋りませんので、昼飯を食べながら悩みを聞くようなこともしています。

C 氏 1人ひとり考えていることが違いますので、個々に話を聞いてみると、やりたいことを偶然言ったりします。やりたいことがあるのなら練習でそれらを頑張って努力せよと言ってやらせていますが、あまり個人個人のなかに入りすぎると、「馴れ合い」になってしまうので気をつけています。ある程度「悩んでいるようだな」と感じたら相談にのるようにしていますが、コートにおいてはコーチと選手とは違う立場なのだから、その辺は一線を引くようにして対応しています。大学生なのだから、自分のことは自分で解決していってもらわないと困りますね。

#### 振興会に一言

司 会 先ほど振興会の紹介をさせていただきましたが、振興会に対してのご感想やご要望がありましたらお聞かせ下さい。

C 氏 振興会の内容を伺って、我々は現場でもっとしっかり学生を教えていかなければいけないと感じました。要望としては、観客動員に力を貸して頂きたいことと、更にバスケットボールのPRをして日本のバスケットを盛り上げて頂きたいことです。

A 氏 大学のバスケットをもっと強化する必要がありますが、バスケットをより発展させる意味で、バスケット界全体がひとつのピラミッドのような組織体制になることを希望しますので、その方向で活躍して頂きたいと思います。

D 氏 正直いって振興会のことはよく知りませんでした。運営も会費で賄っているとのことを伺い立派だと思えます。この組織が広く世間に認知され、社会的にも全国にアピールされるような活躍を期待致します。

E 氏 振興会のことは私もよく知りませんでした。このように陰ながらバスケットを応援して下さっていることに感謝したいと思います。バスケットはサッカーや野球に比べて一般にルールがわかりにくいように感じます。もう少しルールをわかり易く宣伝することも、バスケットを一般に浸透させる一助になると思います。また、試合の結果がテレビや新聞に大きく出ないのが残念ですね。新聞などでは下から見ていった方が記事が早く見つかることも残念です。

B 氏 バスケット界の改造を望みたいです。アメリカのように地域ぐるみでバスケットに取り組み、どこでもバスケットに出会える環境があったらいいと思います。すぐには

無理だと思いますが、組織についても地域に根ざした活動体制にもっていただければいいですね。

振興会がこんなにきちんとした組織で、バスケットを応援して下さっているとは知りませんでした。今後は自分自身の心の改造にも取り組みながら、バスケットのために頑張りたいと思います。

司 会 本日は長い時間本当に有難うございました。最後になりましたが振興会の側からも一言感想をどうぞ。

振興会 若い指導者の方々と私達OBとの交流は大変意義があったと感じます。コミュニケーションの不足が、日本のバスケット低迷の一因になっている点もあり、今後も機会があれば大いに意思の疎通を図って、バスケット界の発展に尽くしていきたいと考えます。振興会については、私達のPR不足も反省させられますが、日本のバスケット界で今までになかったユニークな組織ですし、これからもバスケット界に少しでもプラスになるような活動をして行きたいと思いますので、よろしくお願いします。

### 振興会所感

大学生バスケットボールのレベルアップ、活性化は、日本のバスケット界にとって片時もゆるがせにできない重要な課題であり、特に関係者は間断なき対応に腐心されていることであろう。

ところで現状は、大多数の納得を得られているような実態にあるのであろうか。いわく“実業団のトップレベルには歯が立たない”、“高校の優秀な選手が大学に進んでも十分育てられていない”“スター選手も見当たらず観客を動員できない”など、色々な評価の声を聞くし、事実公式戦に足を運んでみても全般的に生彩、迫力の不足は否めない。

こうした「大学バスケット」全体について、本格的徹底的な分析や論議を試みようとするれば、かなりの労力、時間、その他を要することになり、振興会の現状からは大掛かりな企画をもつ余裕もない。下手に中途半端な取り組みをすれば、かえって誤解や混迷を招かないとも限らないであろう。そこで今回は冒頭申し上げたように、たまたま関東の数大学のご協力が得られたので、取りあえず取材可能な範囲で「大学生バスケット」の一部を垣間見ようとの発想にたち、座談会を開催した次第である。

それ故、今回は上記程度のご紹介にとどめさせて頂くが、こうしたささやかな企画が、本テーマの更なる掘り下げや討論への呼び水となっていくなれば望外の喜びである。

以下、座談の順を追って簡略に所感を述べさせて頂く。

#### ○日常練習について

ウイークデー2～3時間、土日祝日3～4時間、週1日の休みというペースは、各校とも大差なく、関東上位校としては、週16～18時間の練習が平均的なところとみられる。ただ個人別に分析してみると、それぞれの事情によって練習時間が異なって、案外バラツキも多く、その結果として太目の選手がコートにドタバタ走るような光景にもなると思われるので、要注意である。

#### ○学生の気質について

茶髪やひげの選手が多くなったようだが、現在の指導者でそれを賛成している人はいない。

「丸刈りに鉢巻姿で優勝した高校生を真似ろ」とまでは言わないが、「街でのファッションを安易にコートに持ちこんで貰いたくない」というのが大方の見方であろう。

体育会系の選手は上級生・下級生、先輩・後輩の礼儀作法をよく躰られていることを評価され、就職活動上もそれがプラスに作用していたものだが、最近、茶髪のまま一流企業の面接に行き、見事落とされた有名選手がいたと聞くにいたっては「情けない」という以外言葉がない。

“上級生と下級生、先輩と後輩の意識がない” “役割の自覚がない” “部員同士の仲間意識や思いやりがない” といったことが指摘され、それらがチーム力を低下させているという意見もあったが、昔、上級生からのパスをミスキャッチすると怒鳴られるので、一生懸命集中したことなどを思うと、そうしたこともチーム力の向上に役立っていたのかも知れない。昨今の大学生は、中高校生時代からそうした風潮の中で育ってきているという見方もできるだけに、こうした意識の改革は簡単ではなかろうが、かといって本人達のためにもチームのためにも、決して指導をゆるがせにできない大事な問題である。

#### ○将来展望

JBLのトップクラスのチームに入りたいと思っている者と、そうでない者とがはっきり分かれているそうであるが、JBLのチームに入れるのは、ごく限られた選手に絞られてきた以上致し方ないことと思う。企業スポーツの在り方自体に問題が出てきている最近の情勢下では、バスケットでの就職がかなり困難になってきたことは確かであり、その意味ではバスケットだけに集中させすぎること難しくなっているのであろう。要は、しっかりした自覚、意識、展望をもって自分の将来を考えられるような学生、選手へと成長して貰うことが望ましく、指導者側ではその辺も踏まえて対応していく必要があるだろう。

#### ○基本的な資質について

小さい頃からオフェンス中心に育てられている傾向が強いだけに、ディフェンスを基礎からやり直す必要に駆られているのが現状のようであり、確かに時間と根気が必要なことであろう。自主練習で100本のシュートをする選手はざらにいたろうが、ディフェンス練習を100本やったという選手は聞いたことがない。「ディフェンスを頑張れば勝利に結びつくことを理解させ、目標を明確にして取り組み頑張らせている」と言われた大学の姿勢については、それなりに評価されよう。

#### ○「ひたむき」さ

今の学生に一番欠けているのは、「一生懸命にプレイする」姿勢ではないかという点については、全員が認識し指摘されているが、一生懸命なプレイを見ることができない観客や応援団程つまらなく情けないものはないということに通じる。学生が何故そうなるのか、どうしたら良いのか、を常に念頭におかれながらよろしく指導をお願いしたい。学生に夢を与えるうえで“全日本総合選手権大会は外人なしで開催して欲しい”という希望が出されていたが、これについては今後十分に検討する必要がある問題であろう。

#### ○技術的資質について

昔と比べて全体的にシュート力、ドリブル力は向上しているものの、運動能力の割りに技術やセンスが不足している選手が多いようである。“身体を作りながら技術を身につけさせるのがコーチの腕の見せどころでもある”との意見に活路を見出した思いであった。セ

ンスという言葉の意味も、またそれを身につけさせることも大変難しいと思われるが、それに繋がる問題として、パス技術の低下、練習不足が取り上げられなかった点は残念であり、パスの重要性、指導方法などについても今後真剣に対処していく必要がある。

#### ○コミュニケーションについて

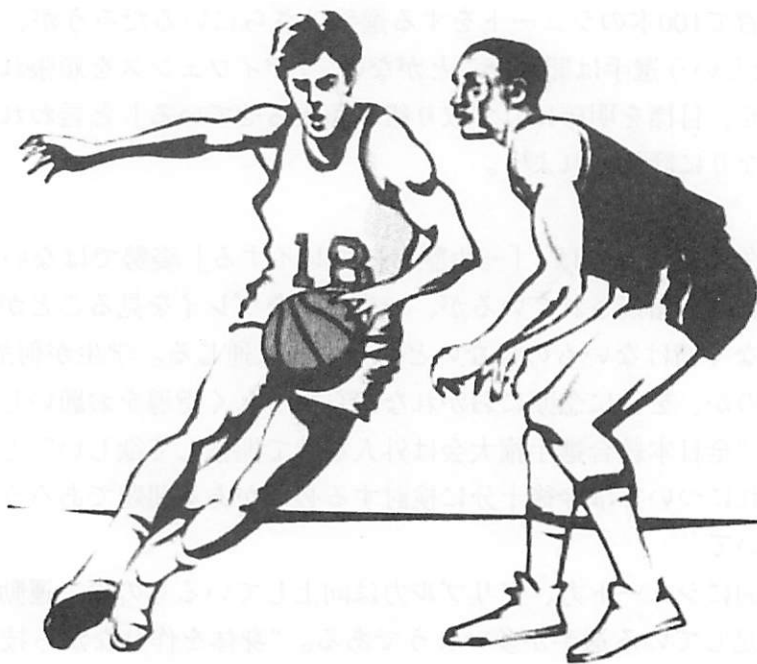
選手同士がゲーム中あまり声を出さず、プレイに関する必要なお喋りもしないという傾向は、多くのチームに見られるところだが、指導者はコミュニケーションということがプレイにおいても部活においても何故必要であるのかについて学生達に理解させ、日常練習の中でも習慣づけをしていく根気と努力が必要とされよう。コミュニケーションの重要性について納得し、実行のための努力を惜しまない選手が多ければ多いほど、そのチームのバックボーンともなる愛部心、愛校心、更にはバスケット哲学といった精神面が、より逞しく醸成されていくことになるのではなかろうか。

#### 結びに

今回の座談会を通じて、監督、コーチとしての諸氏の情熱や真剣な取り組み姿勢などは十分うかがわれたが、一方で悩みや課題を多く抱えておられる実情も浮き彫りにされたように思う。座談会終了後、このような企画の中で、お互いに共感を覚えたり参考になったり啓発刺激を受けた面も多く、有意義な交流であったことを喜んで頂けたのは幸いであった。

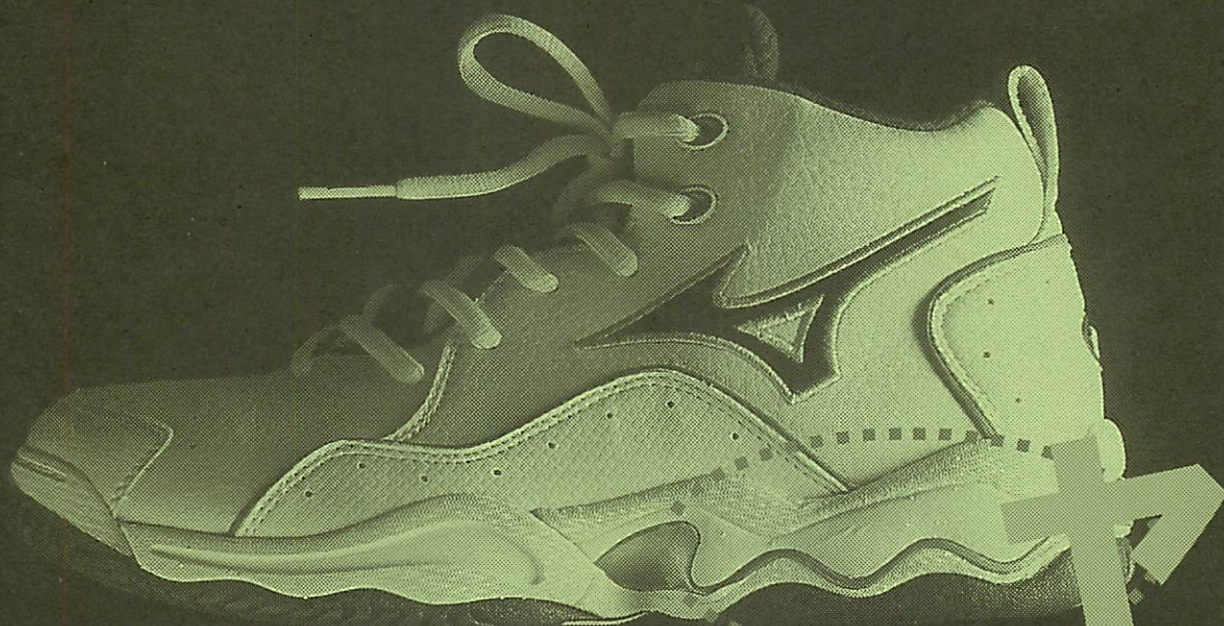
大学指導者陣が、こうした横断的交流や勉強の機会を持ち、広い視野に立って協力し合い、競い合っていく中で着実な成果を挙げて頂ければ、日本のバスケットにも更なる希望の光が期待できよう。

(担当：編集広報懇談会)





ミスノは、JBL  
スーパーリーグの  
オフィシャル  
サプライヤーです。



# ワイドだけじゃ ダメなんだ。 クッション性がいいだけではこれと同じ。ミスノウェーブは足に優しいクッション性がありながら、しっかりした安定性も両立。シューズの常識を打ち破る機能です。クッションだけでは満足できないプレーヤーへ。



MIZUNO WAVE

ウェーブダッシュ ¥14,800 サイズ:25.0~28.0



●ミスノ・インターネット情報は、<http://www.mizuno.co.jp>●記載価格はすべて税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくこととなります。●ミスノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は「ミスノお客様相談センター」東京 TEL.(03)3233-7110 FAX.(03)3233-7217 大阪 TEL.(06)6614-8110 FAX.(06)6614-8463

